

(施策評価表17)

【施策番号 I-3-①-1】

取組みの方向性	活力を創る	戦略	【戦略3】地域力を高める ～政令指定都市以外の地域振興を重点的に進めます～	主な施策	◆新幹線効果を各地域へ広める ～新幹線効果の波及による地域振興～
			①交流拡大による地域振興		

1 取組内容	2 主な事業	担当課	H25予算(千円) H24決算(千円)	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
<p>・これまでの新幹線元年事業やくまもとサプライズなどの取組みを継承発展させ、各地域ならではの食・歴史・文化などの地域資源の活用や、観光客へのおもてなしの向上を図るとともに、地域間連携などの広域的な取組みを進めます。</p>	地域づくり夢チャレンジ推進事業	地域振興課	300,000	<p>・地域づくり夢チャレンジ推進事業において「交流促進の取組み」として24件、「くまもとサプライズふらす」として19件の支援を行い、市町村や地域団体等が行う交流人口の拡大や地域資源活用の取組みが進んだ。</p> <p>・おもてなし創造支援事業について25件の応募があり、事業効果の高いと思われる13件について助成を実施。各地域におけるおもてなしの機運の醸成を図ることができた。</p> <p>・料理セミナーを阿蘇、山鹿、人吉地域で実施。ホテル等の板長や女将さんを中心に合計230人の参加があり、料理の面でのおもてなしの向上を図ることができた。</p>	<p>・引き続き、地域づくり夢チャレンジ推進事業により、交流人口の拡大や広域的な地域づくりの取組みを支援する。</p> <p>・おもてなし創造支援事業について、事業者のヒアリングを実施し、おもてなしの向上に向けた創意工夫があり、他地域の取組みの参考となる事業を採択し、支援する。</p> <p>・県内2カ所で料理セミナーを実施し、「食」の面でのおもてなしの向上を図る。</p>	<p>・これまで「くまもとサプライズ」等により立ち上げられた各地域の実行委員会等による活動が、県民総参加のもと一層県民が主役となり発展し、継続した取組みとなることが必要である。</p> <p>・新たな地域資源の発見と磨き上げが必要である。</p> <p>・本県が「選ばれる観光地」となるために、観光事業者等のみならず県民総参加でおもてなしの向上に取り組む必要がある。</p>	<p>・各地域の実行委員会等の活動が県民総参加の取組に引き上げられるよう助言や支援を行うとともに、新たな地域資源の発見を促すため、制度の周知を図り、市町村や地域団体との積極的な情報交換や参画を推進する。</p> <p>・県民総参加によるおもてなしの心の普及・啓発を進め、各地域が連携した自発的なおもてなし活動が定着するよう取り組んでいく。</p>
	地域づくり夢チャレンジ推進事業うち「くまもとサプライズふらす事業」	地域振興課	15,000 17,586				
	顧客満足度向上プロジェクト事業	観光課	4,180 4,600				
<p>・県外の方々が新幹線を利用して県内各地を訪れ、その魅力に触れることができるよう、熊本駅のみならず、新玉名駅、新八代駅、新水俣駅の新幹線各駅を起点とした二次アクセスの整備や観光ルートの開拓などを進めるとともに、地域が取り組む三次アクセスの整備を支援します。</p>	熊本観光ブランド形成事業	観光課	1,500 1,500	<p>・県内の各地域で設置されている地域公共交通に係る会議に参画し、地域の実情に応じた交通の維持・確保、利便性向上等を図るための取組みについて協議した結果、乗継円滑化に関するバス路線網再編や循環バス等の導入が図られた。</p> <p>・観光周遊バスの整備を推進し、当該バスを旅行商品として全国向け販売した（もりめぐりん・みずめぐりん・しろめぐりん・ASOギャラリー号・快速あまくさ号・天草ぐるっと周遊バス）</p> <p>・三角西港を核とした観光振興を図るため、三角西港の浮桟橋連絡橋及び緑地（駐車場）整備を推進した。</p>	<p>・新幹線各駅を中心とした各地域へのアクセス整備による公共交通ネットワークの充実強化について、各市町村や交通事業者と連携を図りながら、協議・検討を行っていく。</p> <p>・本県と隣県を結ぶ観光アクセスバスを引き続き運行（雲仙・長崎オーシャン観光バス）させるとともに、九州新幹線を念頭に置いた観光周遊ルートを開発する。</p> <p>・天草への海の玄関口である三角港において、JR九州の「A列車で行こう」と連携した観光振興を図るため、三角東港広場や三角西港桟橋広場の整備に着手する。</p>	<p>・交通アクセスの整備を、観光や地域振興等の交流人口拡大のための取組みと一体となって進めることが必要である。</p> <p>・観光ルートの確立をめざすため、観光資源の更なる発掘・磨き上げが必要である。</p> <p>・各観光地にアクセスするための交通網（バス・レンタカー・観光タクシー等）の整備が必要である。</p> <p>・新幹線各駅を起点とした、県外から県内各地へ訪れる人の流れを拡大するため、海の玄関口である港の景観整備や三次アクセスである海上交通の整備・保全が必要である。</p>	<p>・県内各地域における交通ネットワークを充実させていく。</p> <p>・二次交通網利用者数の増大を図っていく。</p> <p>・三角港等の景観整備を促進し、海の玄関口として魅力ある空間を創出することで、地域振興に繋げていく。</p>
	「選ばれる観光地くまもと」観光キャンペーン展開事業	観光課	100,000 99,995				
	重要港湾改修事業	港湾課	45,000 23,228				
	単県港湾環境整備事業	港湾課	80,000 0				
	単県維持浚渫事業	港湾課	520,000 596,359				
	港湾海辺空間創造事業	港湾課	460,000 0				
<p>・特急「あそぼーい！」や「SL人吉」、「A列車で行こう」、「天草宝島ライン」などを活用し、熊本駅を起点に、県内各地へ人の流れを拡大する取組みを各地域と一体となって進めます。</p>	「選ばれる観光地くまもと」観光キャンペーン展開事業	観光課	100,000 99,995	<p>・新幹線各駅から各地域への二次アクセスは、交通事業者が中心になり、三次アクセスについては、各市町村を中心に、交通事業者、利用者等の連携した取組みが進められた。</p> <p>・JR九州、JR西日本とのタイアップにより、観光列車をテーマに「夏だモン！くまもとあそびんゴ!!夏たびキャンペーン（H24年7月～8月）」、「期待を超えるぞ！くまもっと県。キャンペーン（H24年10月～H25年3月）」を展開、熊本駅を起点とした観光ルートの開発に繋がった。</p>	<p>・県内の各地域で地域公共交通に係る会議が設置されており、地域の実情に応じた交通の維持・確保、利便性向上等を図るための取組みについて協議し、乗継円滑化に関するバス路線網再編や循環バスの導入等が図られている。県は、各地域における会議の委員等として参画し、支援・調整等を行っており、引き続き協議・検討を行っていく。</p> <p>・JR九州とタイアップし、在来線や観光列車を観光素材として捉えた観光キャンペーンを展開する。</p>	<p>・交通アクセスの整備は、観光や地域振興等の交流人口拡大のための取組みと一体となって進めることが必要である。</p> <p>・観光キャンペーンの展開に向け、JR九州、各地域の理解、協力を得ることが必要である。</p>	<p>・県内各地域における交通ネットワークを充実させていく。</p> <p>・各観光列車の乗車人数の増大を図っていく。</p>
	主な施策のまとめ			<p>●おもてなし創造支援事業について、13件の取組みに対して助成を実施し、各地域におけるおもてなしの機運を醸成。</p> <p>●観光周遊バスを整備し、旅行商品として全国販売（もりめぐりん・みずめぐりん・しろめぐりん・ASOギャラリー号・快速あまくさ号・天草ぐるっと周遊バス）。</p> <p>●新幹線各駅から各地域への二次アクセス、三次アクセスについて、関係者が連携した取組みが進展。</p>	<p>●おもてなし創造支援事業について、事業者のヒアリングを実施し、おもてなしの向上に向けた創意工夫があり、他地域の取組みの参考となる事業を採択、支援。</p> <p>●本県と隣県を結ぶ観光アクセスバス（雲仙・長崎オーシャン観光バス）を引き続き運行させるとともに、九州新幹線を念頭に置いた観光周遊ルートを開発。</p>	<p>●本県が「選ばれる観光地」となるための、観光事業者等のみならず県民総参加によるおもてなしの向上。</p> <p>●観光ルートの確立に向けた観光資源の更なる発掘・磨き上げ。</p> <p>●交通アクセスの整備は、観光や地域振興等の交流人口拡大のための取組みと一体となって進めることが必要。</p>	<p>●県民総参加によるおもてなしの心の普及・啓発を進め、各地域が連携した自発的なおもてなし活動が定着する取組みを推進。</p> <p>●県内各地域における交通ネットワークを充実。</p>